

# 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

## 目 次

### 子育て支援専門委員会「思春期保健対策 WG」報告書

- I. は じ め に
- II. 調 査 概 要
- III. ま と め

# 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

(平成 19 年度)

## 子育て支援専門委員会「思春期保健対策 WG」報告書

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会 思春期保健対策 WG

WG 長 吉田 信隆

### I. はじめに

広島市の平成 17 年度（2005 年度）の 10 代の人工妊娠中絶率は 11.9（広島県 12.4）で、全国の 9.4 よりも高い状況にある。国においても、母子保健の国民運動計画である「健やか親子 21」（平成 13～22 年度）で 10 代の人工妊娠中絶実施率や、性感染症罹患率、思春期やせ症を減少させることを目標としており、平成 16 年度に閣議決定された少子化社会対策大綱においても、思春期保健対策を推進させることとしている。

以上のことを念頭に置き、思春期保健対策 WG を設置し、県内の産婦人科における 10 代の人工妊娠中絶の実体調査を行い、10 代の望まない妊娠を減らすための思春期保健について検討した。

### II. 調査概要

#### 【調査対象】

広島県内の産婦人科（病院・診療所）

#### 【調査方法】

広島県内で産婦人科を標榜している病院・診療所に「10 代の妊娠中絶の実体およびその後の対策」を調査するためのアンケートを配付し、集計を行った。

#### 【回答状況】

アンケート送付数 180 に対し、回答は 105（58.3%）であった。

#### 1. 医療機関の形態

回答数 105 件の内、無床診療所が最も多く、41.9% を占め、有床診療所が 29 施設（27.6%）、病院が 28 施設（26.7%）であった。

#### 2. 思春期外来の有無

回答数 105 件の内、「あり」と回答した施設は 5 施設で、4.8% にすぎなかった。

#### 3. 出産の取り扱いの有無

回答数 105 件の内、「なし」と回答した施設が 57 施設（54.3%）を占め、「あり」と回答した施設は 43 施設（41.8%）を上回った。出産を取り扱わない施設が半数を超えている実体を示すものである。

#### 4. 医師の数・性別

回答数 105 件の内、男性医師のみの施設は 68 施設（64.8%）であり、女性のみ 3 施設（2.9%）と、最近では産婦人科医の女医の増加が知られているものの、実際的には未だ男性医師に産婦人科医療を依存している実態が示されている。

#### 5. 平成 18 年度の 10 代の STD 患者数

回答数 105 件の内、受診者なし；22 施設（21.0%）と 10 件未満；31 施設（29.5%）で、約半数を占めているが、反対に 30 件以上が 19 施設（18.1%）、その内 100 件以上が 3 施設（2.9%）あり、STD の取り扱い施設が集中している事が示唆される。

#### 6. 平成 18 年度の人工妊娠中絶実施件数

扱っていない施設が 36 施設（34.3%）、20 件未満が 28 施設（26.7%）と、少数しか取り扱っていない施設が約 6 割を占めている一方、100 例以上を取り扱っている施設も 13 施設（12.4%）あり、二極化が進んでいることが示されている。

#### 7. 問 6 で人工妊娠中絶実施機関のうち、10 代の人工妊娠中絶数

人工妊娠中絶実施機関 68 施設のうち、5 件までは 30 施設（44.1%）であったが、40 件以上の施設も 2 施設（2.9%）あった。このことは 10 代の妊娠中絶施設も集中化していることが示されている。

#### 8. 10 代の性行動への相談・指導や取り組みの実施状況

(1) STD 受診者に対する相談・指導の実施

全 105 施設の内、相談・指導をしている施設

は70施設(66.7%)であり、STD患者がいない施設が22施設であることを考慮すると、多くの施設ではSTDでの受診者に性行動に対する指導が行われている事が示されている。

避妊法に関しては62/70施設(88.6%)が指導し、コンドーム48/62施設(77.4%)、ピル42/62施設(67.7%)が主で、緊急避妊ピルを指導している施設も22/62施設(35.5%)に認められた。

性感染予防に関しては59/70施設(84.3%)が指導し、クラミジア42/59施設(71.2%)、淋病36/59施設(61.0%)、性器ヘルペス32/59施設(54.2%)の順で、50%以上が指導していた。それに続きHIV、尖圭コンジロームに関しても50%弱の施設で指導していた。

パートナーへの指導も23/70施設(32.9%)で行われていた。

## (2) 人工妊娠中絶受診者に対する相談・指導の実施

全105施設の内、指導をしている施設は64施設(61.0%)であり、10代の人工妊娠中絶を行っていない施設が48施設であることを考慮すると、ほとんどの施設では10代の人工妊娠中絶での受診者に性行動に対する指導が行われている事が示されている。

避妊法に関しては62/64施設(96.9%)が指導し、コンドーム42/62施設(67.7%)、ピル45/62施設(72.6%)がやはり主で、緊急避妊ピル23/62施設(37.1%)を指導している施設も認められた。

性感染予防に関しては38/64施設(59.4%)が指導し、クラミジア29/38施設(76.3%)、淋病25/38施設(65.8%)、HIV24/38施設(63.2%)、性器ヘルペス24/38施設(63.2%)、尖圭コンジローム22/38施設(57.9%)、梅毒20/38施設(52.6%)の順で、個別の性感染症に対し全て50%以上が指導していた。

パートナーへの指導は10/64施設(15.6%)で行われていた。

10代の性行動への相談・指導や取り組みの実施状況全体として考慮すると、多くの施設で個別指導が行われ、避妊法に関しては、「コンドーム」および「ピル」での避妊指導が多く、却っ

て性行動を増しかねないと判断してか、「緊急避妊ピル」に関しては40%弱の施設での指導に止まっている。その内STDでの来院者に関してはコンドームを、人工妊娠中絶での来院者にはピルの指導が多かったことは、疾患を反映してのことで、興味深い。

また、性感染症予防の点では、卵管性不妊を招く恐れの高いクラミジア、淋菌に関する指導が多かった。それに加え、HIVや性器ヘルペスに対する指導も半数程度には指導されていた。これらの指導はSTD・人工妊娠中絶いずれの場合にもほぼ同程度行われており、医師側はその重要性を認識していると思われた。

パートナーへの指導はSTDの場合に32.9%、人工妊娠中絶受診者への指導は15.6%と、有意( $p < 0.05$ :  $\chi^2$ 検定)にSTDの場合への指導が多かった。これは男性側にも感染し伝搬して行くことを憂慮しての指導と考えられた。

自由記入欄では、性感染症に対する知識をもっと教育するべきであるとの意見が多く示されていた。

## Ⅲ. ま と め

以上の事から考慮すると、この統計にも認められるように、医師側はかなりSTDや避妊法の教育に力を入れている事実が明らかになった。ただ、これらの統計を通して、10代の性の問題に関する知識は乏しく、性行為とその結果の妊娠、さらにSTDに関する知識の普及が今後の思春期対策に関し必須である事が浮き彫りになったと考えられた。

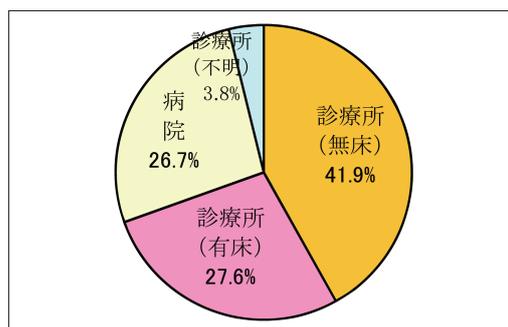
これらの成果を踏まえ、まずは「産婦人科受診者における性の知識の普及」を通して人工妊娠中絶のリピーターの減少、性感染症への知識の普及を支援していく必要があることが示された。また、今後の方向性として、学校における養護教員への「性の位置づけ」および「性感染症の知識」の教育を通じ、少なくとも10代における性の知識の未熟さからの妊娠中絶、あるいは性感染症の結果としての不妊症などを予防して行く必要があるものと考えられた。

今後の方針として、妊娠・性感染症に対する啓発の意味をふまえ、患者(患児)向けの小冊子を作成していく予定である。

【調査期間】	平成19年11月14日～平成19年12月7日 (期間を過ぎてからの回答も受理)		
【調査対象】	県内の産婦人科を標榜する医療機関		
【調査方法】	郵送自記式		
【調査件数】	調査対象数	回答数	回収率
	180	105	58.3%

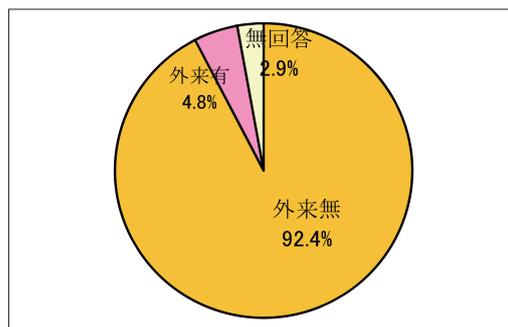
1 医療機関の形態

区分	回答数	割合
診療所（無床）	44	41.9%
診療所（有床）	29	27.6%
病院	28	26.7%
診療所（不明）	4	3.8%
合計	105	



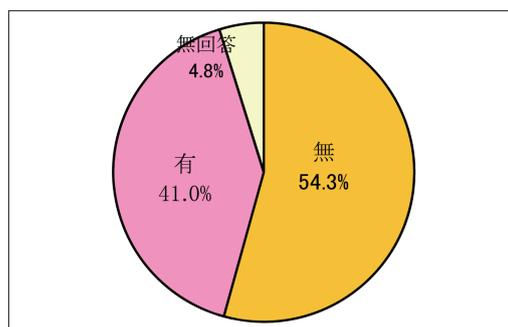
2 思春期外来の有無

区分	回答数	割合
外来無	97	92.4%
外来有	5	4.8%
無回答	3	2.9%
合計	105	



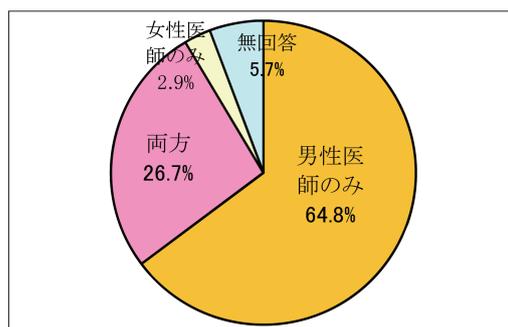
3 出産取扱の有無

区分	回答数	割合
無	57	54.3%
有	43	41.0%
無回答	5	4.8%
合計	105	



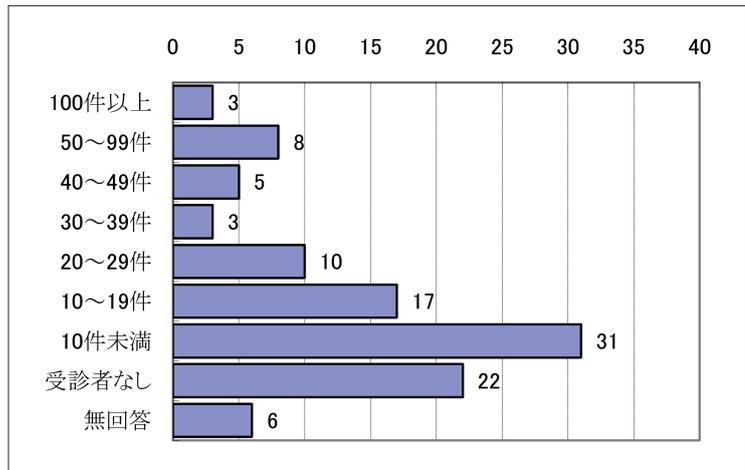
4 医師の数・性別

区分	回答数	割合
男性医師のみ	68	64.8%
両方	28	26.7%
女性医師のみ	3	2.9%
無回答	6	5.7%
合計	105	



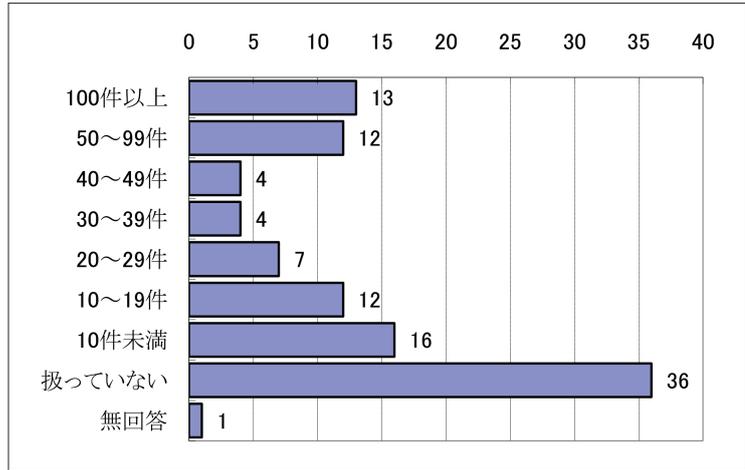
5 平成18年度の10代のSTD受診者数

区分	回答数	割合
100件以上	3	2.9%
50～99件	8	7.6%
40～49件	5	4.8%
30～39件	3	2.9%
20～29件	10	9.5%
10～19件	17	16.2%
10件未満	31	29.5%
受診者なし	22	21.0%
無回答	6	5.7%
合計	105	



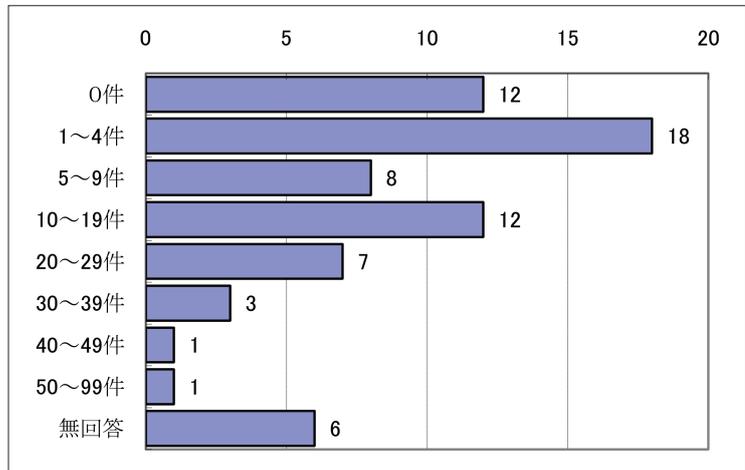
6 平成18年度の人工妊娠中絶実施件数

区分	回答数	割合
100件以上	13	12.4%
50～99件	12	11.4%
40～49件	4	3.8%
30～39件	4	3.8%
20～29件	7	6.7%
10～19件	12	11.4%
10件未満	16	15.2%
扱っていない	36	34.3%
無回答	1	1.0%
合計	105	



7 問6で人工妊娠中絶実施医療機関のうち10代の人工妊娠中絶数

区分	回答数	割合
0件	12	17.6%
1～4件	18	26.5%
5～9件	8	11.8%
10～19件	12	17.6%
20～29件	7	10.3%
30～39件	3	4.4%
40～49件	1	1.5%
50～99件	1	1.5%
無回答	6	8.8%
合計	68	



8 10代の性行動への相談・指導や取組の実施状況

(1) STD 受診者に対する相談・指導の実施

○ 実施の有無 (n=105)

区分	回答数	割合
実施している	70	66.7%
実施していない	31	29.5%
無回答	4	3.8%

○ 実施している場合の内容 (n=70) 重複回答

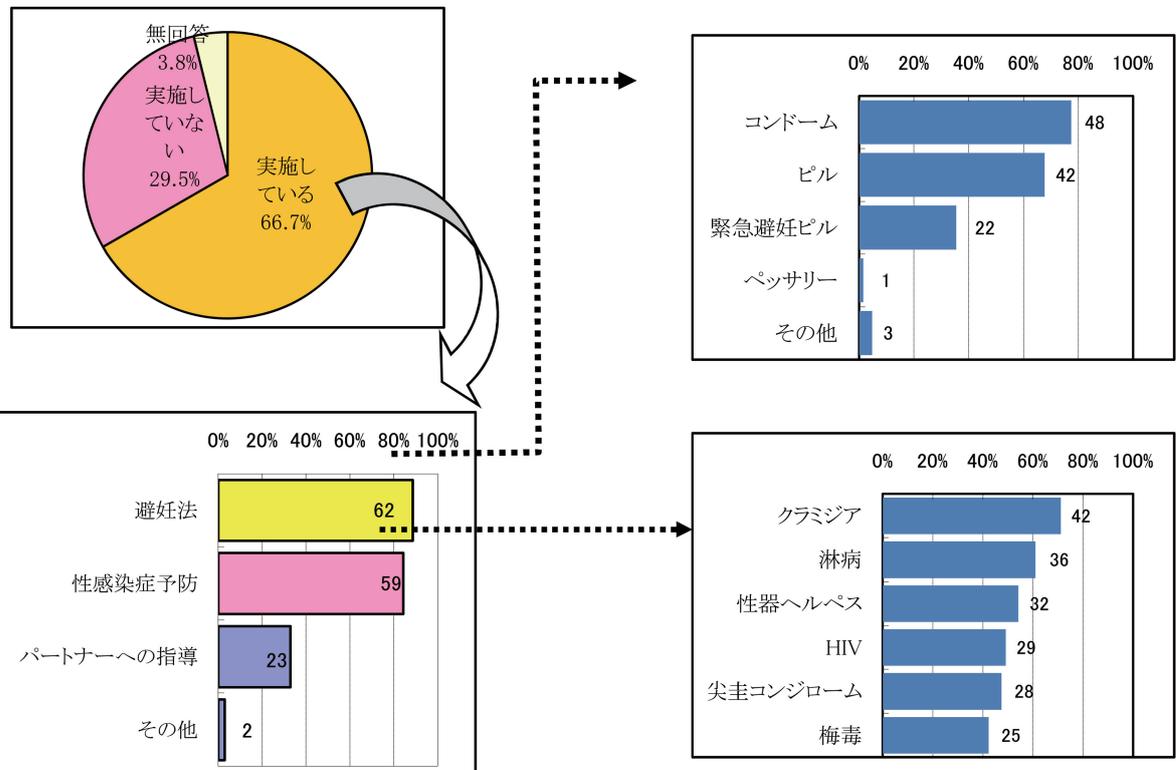
区分	回答数	割合
避妊法	62	88.6%
性感染症予防	59	84.3%
パートナーへの指導	23	32.9%
その他	2	2.9%

○ 避妊法の内容 (n=62) 重複回答

区分	回答数	割合
コンドーム	48	77.4%
ピル	42	67.7%
緊急避妊ピル	22	35.5%
ペッサリー	1	1.6%
その他	3	4.8%

○ 性感染症予防の内容 (n=59) 重複回答

区分	回答数	割合
クラミジア	42	71.2%
淋病	36	61.0%
性器ヘルペス	32	54.2%
HIV	29	49.2%
尖圭コンジローム	28	47.5%
梅毒	25	42.4%



(2) 人工妊娠中絶受診者に対する相談・指導の実施

○ 実施の有無 (n=105)

区分	回答数	割合
実施している	64	61.0%
実施していない	30	28.6%
無回答	11	10.5%

○ 実施している場合の内容 (n=64) 重複回答

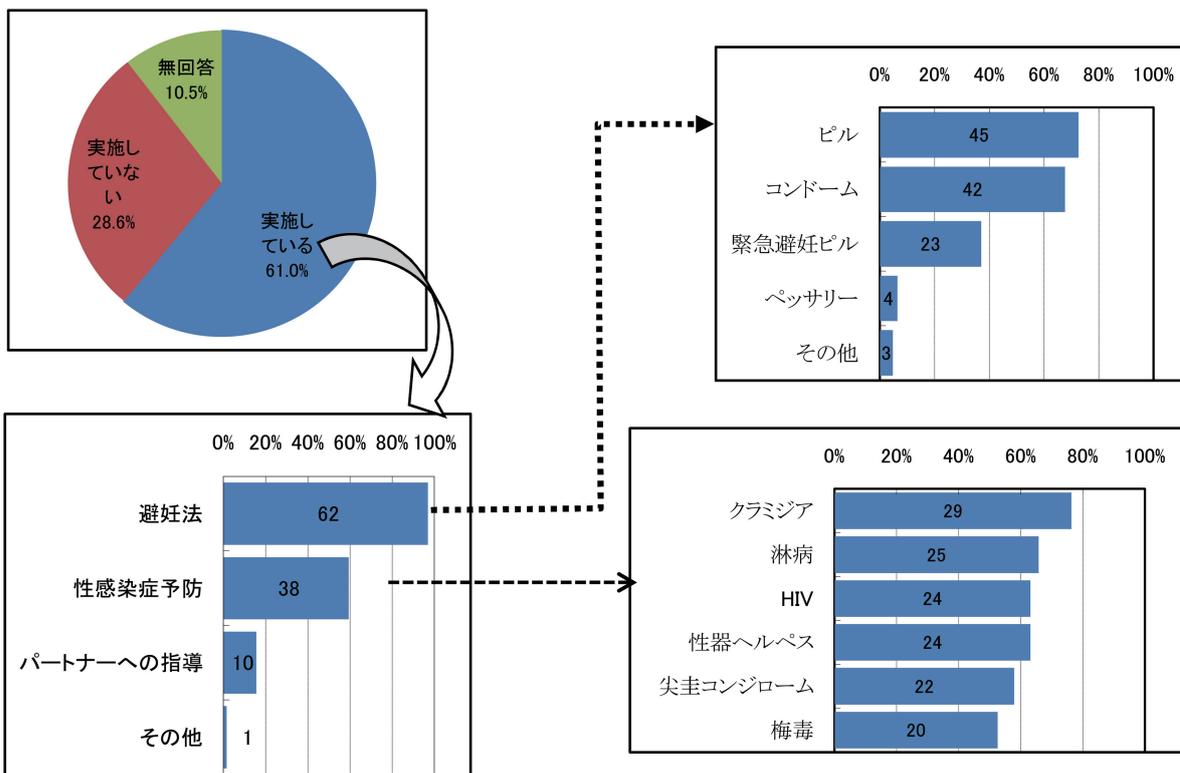
区分	回答数	割合
避妊法	62	96.9%
性感染症予防	38	59.4%
パートナーへの指導	10	15.6%
その他	1	1.6%

○ 避妊法の内容 (n=62) 重複回答

区分	回答数	割合
ピル	45	72.6%
コンドーム	42	67.7%
緊急避妊ピル	23	37.1%
ペッサリー	4	6.5%
その他	3	4.8%

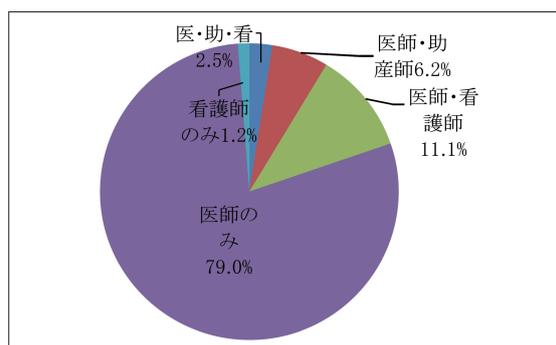
○ 性感染症予防の内容 (n=38) 重複回答

区分	回答数	割合
クラミジア	29	76.3%
淋病	25	65.8%
HIV	24	63.2%
性器ヘルペス	24	63.2%
尖圭コンジローム	22	57.9%
梅毒	20	52.6%



(3) 相談・指導や取組の実施者

区分	回答数	割合
医師・助産師・看護師	2	2.5%
医師・助産師	5	6.2%
医師・看護師	9	11.1%
医師のみ	64	79.0%
看護師のみ	1	1.2%
合計	81	



- 9 医療機関として、取り組むべき思春期保健の課題は何だと思われるか。
- ・ 性の大切さと性行為の本来の目的，性行為のおそろしさを伝える。
  - ・ STD 避妊法に対する正しい知識の普及
  - ・ STD，妊娠（望まない）。ただし当院には対象となる患者数は少ない。
  - ・ ピルの啓発。
  - ・ ①性感染症予防 ②避妊法普及
  - ・ 避妊法・性病予防の知識の徹底
  - ・ 現状では未婚・経済困難の理由で人工妊娠中絶を 100% 近い人が中絶を希望して来院されます。事後の指導だけでは 10 代の中絶を減らす効果は期待できないと思われます。
  - ・ STD 予防，避妊教育
  - ・ 性感染症予防
  - ・ 困った時に相談に来れるような医院にしておくことが必要である。
  - ・ 生殖器や女性の二次性徴に対する教育と STD の広報
  - ・ 医療機関に受診時の取り組みだけでは限界があると思われます。
  - ・ 思春期保健より先に親に対する教育が必要と思います。
  - ・ 実態調査
  - ・ Safe & Smooth
  - ・ 10 代の子に性の知識を与えていくこと
  - ・ 答えに困る。個々の症例の処理に追われているのが実情である。
  - ・ 正しい避妊法や STD の予防，家庭内での教育：10 代の妊娠の多くは家庭内特に母親に問題がある人が多いように見受けられます。（家庭不和，両親の異性関係等）
  - ・ そのまゝに周産期医療をどうにかして（overwork）
  - ・ 学校での講習会
  - ・ STD 以外にも，ホルモン異常に対する継続的処置（将来の妊娠に備え）。STD 中絶の再発防止。
  - ・ STD の早期受診→早期診断→STD の説明と理解
  - ・ パートナーへの指導
  - ・ 学校における性教育
  - ・ 男性への思春期指導の徹底を
  - ・ 妊娠や性感染症に対して，すぐに相談できる場所の設置
  - ・ STD と避妊（コンドームとピル）及び中絶手術が安価にできるように。
  - ・ 近年，「胎内記憶」や「誕生記憶」の存在がとり上げられ，赤ちゃんはお母さんのおなかの中にいる時から，もっと前では精子の時から感情があると言われていています。そのような事から，生命の大切さを訴えていくことが大切と思われます。当院では講演会を行うことにより活動していくつもりです。
  - ・ STD の予防，望まない妊娠の予防
  - ・ 1 人 1 人に話していくしかない。
  - ・ 学校医として啓発

10 思春期保健対策について、どのような取組が必要と思うか。

- ・ 大人の性に対する姿勢を正す（現状を知ってもらうためにパンフレットをまず親に渡すこともあります。子供にはコンドームとOCをちゃんと理解させる）。
- ・ 病院前の教育・対応が必要
- ・ ピルの啓発
- ・ STD 予防と避妊に対してはコンドームの使用を学校教育の中で充実させること。
- ・ 中学校・高等学校での性教育，避妊法，性病の恐ろしさ，性病予防教育の徹底
- ・ 10代の若年者に対する性教育や，集团的講習会の開催による指導が重点となると考えています。
- ・ 性教育
- ・ 学校などでの早期よりの指導
- ・ 学校での性教育
- ・ 従来のSTDを恐れさせるような教え方はあまり効果がないと思う。具体的にそうすれば防げるのかを教えた方がよい。
- ・ 中学生に対して，性感染症の予防を含む性教育を実施する必要があると考えます。高校生では遅いと思います。
- ・ 中高生の教育
- ・ マスコミを利用してSTDに対する理解を促す（行政を中心に取り組むべき）
- ・ 中学校，高等学校での保健授業で教えるべき
- ・ 教育現場での理解と取り組みが肝要と考えています。産婦人科医として，親として「生命の大切さ」をといていく取り組みを，小さいところからでも積み上げていく活動が大切で，協力していきたいと思います。平成20年度活動予定に期待しています。
- ・ 思春期保健より先に親に対する教育が必要と思います。
- ・ 小・中・高校での具体的な（現実をみすえた）指導
- ・ Money
- ・ 本人を含め周囲の家庭環境が大いに影響している。広範な取組が必要だがなかなか困難
- ・ 学校保健授業に取り入れてはいかがでしょうか。男女ともに
- ・ 学校での講習会
- ・ 早期の性教育。いじめ等による卵巣機能不全の発症予防，過食・拒食への総合的対応，SEXパートナーの固定（不特定多数を避ける），STD 予防
- ・ 中学生の時期に性教育（小学生は少し早い？）
- ・ 学校，地域，医療の連絡
- ・ 行政，学校と協力して，性教育の徹底，充実を図る。
- ・ もっと啓発できるよう講演など増やす。
- ・ 啓発活動が重要と思います。（保健の先生などに対して教育し，学校での教育を行ってもらう。）
- ・ （女子）中学生の性教育，高校生で避妊について。  
Y 学園大学の学園祭で30分のスピーチを依頼された。聞きたい内容につきアンケートを行ったところ80%が，中絶は親の同意があるか，痛いかな，費用と最も安価な診療所はどこか，でした。  
考えた末お断りしました。
- ・ STDの身体に対する危険，ひどさを訴えてほしいと思います。
- ・ 低年齢化しています。

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会

委員長 田中 義人 広島大学大学院保健学研究科  
委員 野上千津江 広島市社会局子育て支援  
平川 勝洋 広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
堀江 正憲 広島県医師会  
益田 慎 県立広島病院  
松田 文雄 松田病院  
横杉 哲治 広島県福祉保健部総務管理局こども家庭支援室  
吉田 信隆 広島市立広島市民病院

広島県地域保健対策協議会 子育て支援専門委員会

思春期保健対策 WG

WG長 吉田 信隆 広島市立広島市民病院  
委員 佐藤 博子 広島県福祉保健部総務管理局こども家庭支援室  
瀬戸真理子 瀬戸産婦人科医院  
中込さと子 広島大学大学院保健学研究科  
西村真一郎 広大大学院医歯薬学総合研究科  
野上千津江 広島市社会局子育て支援  
原田 良三 広大附属中高等学校  
堀江 正憲 広島県医師会  
政藤 信夫 広島県教育委員会教育部指導第三課  
松田 文雄 松田病院  
温泉川梅代 広島県医師会  
要田 豊 広島市教育委員会学校教育部給食保健課